

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470801208	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	社会福祉法人横浜長寿会		
事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫		
所在地	(236-0014) 神奈川県横浜市金沢区寺前2丁目23-35		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和2年1月28日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「金沢文庫」で有名な称名寺や海の公園に近い、温かみのある住宅地の中にあります。地域の活動も活発で、夏祭りの子供神輿や、新年の厄落としの獅子舞などが訪れて下さり、地域に溶け込み皆さん生活を送っています。
ゆっくり・ゆったり・私らしくを理念に置き、お一人おひとりが自分らしさや誇りを持ち、ホッと安心でき、人の温もりを感じながら生活を送っていただけるようスタッフ一同心を込めてサービスを提供させていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年6月10日	評価機関 評価決定日	令和3年3月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行電鉄「金沢文庫」駅下車、東口から海の公園方面に徒歩12分のところにあります。生活に便利な商店と混在した住宅街の一角に位置しています。明るい外壁の鉄筋二階建て建物の1階部分を利用し、1ユニットで運営しているグループホームです。2階部分は、別法人の障がい者グループ施設と成っています。周辺には三浦地区の古刹である寺や学校などがあり、落ち着いた静かな佇まいとなっています。

<優れている点>

事業所の理念である「ゆっくり・ゆったり・私らしく」を大切に経験豊かな職員が中心となり、利用者寄り添いながら日常を大切に生活支援をしています。室内の生活環境・飾り付けにも家庭の雰囲気を出すことに気を配っています。自治会関係者や近隣住民とは種々の地域の催しなどで人々との交流を行い、年間行事として利用者の楽しみになっています。

<工夫点>

出来る限り手作りの感じられるモノづくりなどの活動を行い、利用者のぬくもり感の醸成につなげています。また、それぞれの思いや意向の把握・汲み取りの機会としています。誕生日祝は画一的に実施するのではなく、誕生日である本人の意向を尋ね、それに沿って実現するよう工夫を凝らす取り組みを行っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時からの理念を今も引き継いでおり、会議の場や日常の中で声を掛け合い、実践へとつなげています。	事業所の理念「ゆっくり・ゆったり・私らしく」を掲示して日々の活動時にも声を出して唱和して確認しています。利用者にも理念が少しでも浸透するよう働きかけることも併せて行っています。会議時には理念の再確認も行いより良い支援につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域行事への誘いをいただき、参加しています。又、日常的に散歩に出かけ、あいさつを交わしあい、時には立ち話をしながら、互いに顔見知りの関係を築いています。	町内自治会館や消防団施設が近くにあり、ホーム前の駐車場を子供神輿など地域の集まりに活用しています。静かな裏通りに面していて、散歩時に通りを歩く高齢の人や近隣の人々と会話を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事への参加や、日常の生活での地域の方々との自然な触れ合いを通して、認知症の方々への理解を得ただけのように取り組んでいます。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通してグループホームでの利用者の生活の様子を知っていただき、家族や地域の方々からの評価や助言、要望をいただき、より地域とつながってサービスを提供できるように取り組んでいます。	運営推進会議の開催はしていますが報告、情報入手が中心です。自治会役員や地域の方の意見交換を含めて今後も話し合いを進めていく意向です。	住民が集う町内自治会館もすぐ近くにあり。グループホームとしての存在感、役割を発信していく場としても運営推進会議を更に進めることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区内のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームや区の職員と情報交換を行っています。また、介護相談員を受け入れ、助言をいただきながら協力関係を築いています。	区の職員や生活相談員の来所があり、意見交換を継続的に進めています。また地域のグループホーム連絡会に参加して地域の課題を共有しています。区の福祉関係の行事、研修会にも積極的に参加をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が起す弊害を知ることや、利用者一人一人についての理解を深めていくこと、又、グレーゾーンやスピーチロックを含め、会議において話し合いながら身体拘束をしないケアを提供できるように取り組んでいます。	法人開催の研修会を実施し、職員会議などを利用して身体拘束をしないためのケアに関する日常的な振り返りを進めています。入居契約時にも利用者本人及び家族などに説明と確認を行っています。玄関などの施錠は日中は行っていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について理解を深め、スタッフが心の余裕を持って仕事に取り組めるよう勤務内容を見直しながら、虐待につながらないケアに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について理解し、必要に応じて支援につなげていくことができるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約内容や重要事項についての説明を行い、家族や利用者の入居に対する不安や心配事などを聞き、安心して入居生活が送れるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来訪時や近況を伝える手紙、電話などで話しやすい雰囲気や関係を作り、意見・要望・苦情など何でも伝えていただけるよう働きかけています。また、日常の関わりの中で利用者から意見・要望など聞いた時には、口頭や記録などで申し送り、サービスへとつなげています。	家族などへ毎月便りで近況報告をしています。来訪時、電話等で聞くことも日々努めています。退院後の利用者の転倒などの防止の要望に対し、病院の指導を受け、職員の見守りからしっかり歩けるようになった事例もあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議でスタッフに意見や提案を出してもらい、話し合いをしながら運営に反映させています。	日々の仕事の流れは職員でよく話し合っていて決めています。利用者の様子の変化やコロナ対策についても職員で意見を出し合っていて進めています。管理者は職員が意見を出せる雰囲気づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の経営会議や役職者会議において、運営状況の報告・点検を行い、スタッフの勤務状況や労働環境等の問題・課題について検討し、職場の環境整備やスタッフが成長・育成できるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修に参加し、参加後は研修報告を行い、研修内容を全スタッフで共有し、日々のケアに繋げていけるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は同区内のグループホーム連絡会に参加し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上へとつなげていく取り組みをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で本人の様子を知り、スタッフ間で情報を共有し、利用時に不安や戸惑いが無いよう努めています。また利用初期には、様子を細かく記録し、その方のことをよく知ることにも努め、何でも話せ、安心して生活を送っていただける関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で家族の不安や要望・思いを聞き、受け止め、安心してサービスを受けていただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に本人と家族にお会いし、思いや生活習慣、趣味、嗜好等聞き、必要なサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりをよく知るように努め、個々のそれまで培ってきたもの、思い、今出来ることを大切にしながら、人生の先輩として教えていただきながら、共に暮らす関係を築いていくように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子をこまめに伝えるとともに、家族の思いをきちんと聞き、互いに意見を出し合いながら、共に利用者を支えていくという関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人に気持ち良く来訪していただけるように、また、気軽に電話を掛け合えるように配慮し、馴染みの関係が途切れないように努めています。	入居時に家族や関係者からしっかり情報提供を受け、共有しています。来訪者に対しては気持ちよく時を過ごせるよう気を配っています。馴染みの場所や人づくりをかねて、近隣の商店にも買い物などに出かける機会を作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その日その日の一人一人の心身の状態や気分を把握し、利用者同士が互いに協力し、理解しあい、関係が円滑になるように働きかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られるときには、本人の生活が断ち切られないように、なるべく細かに情報を提供しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での本人の発する言葉や表情などから、思いや要望をくみ取り、また、家族からも情報をいただきながら、本人の意向・希望を把握するように努めています。	日々の関わりの中で、本人の発する一寸した言葉や表情、テレビ鑑賞時などから、思いや意向がどこにあるかを汲み取るように努めています。当初、入浴拒否をしていた人も職員との信頼関係が深まる中で穏やかになり、入浴拒否が無くなった例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にこれまでの暮らし方の情報を得るとともに、入居後も関わりの中から知ったことを申し送りや会議を利用し、情報を共有していくように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や表情、毎日の記録、働きかけにより、現状を把握し、記録や会議などで全スタッフが現状の把握ができるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いや意見を聞き、会議の中で個々についての情報を出し合い、本人にとってよりよい生活とは何かを考えながら計画を作成しています。	作成したケアプランをもとにモニタリングを行い、毎月職員カンファレンスを行ってプランの継続や見直しの検討につなげています。家族からの希望や医療機関の情報を職員で共有して利用者、家族の思いにつなげられるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の健康状態や食事摂取状況、過ごし方などを記録に残し、情報を共有し、会議の中で話し合い、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の様子や思いの変化を受け止め、今その方にとって何が必要かを常に考えながら支援につなげています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事や日々の散歩などを通し、馴染みの関係を築くことで、地域の中で安心して生活を送っていただけるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望を聞きながらかかりつけ医を決めています。又、受診には必要に応じて管理者も付き添い、適切な医療を受けられるよう支援しています。	事業所の契約病院と従来のかかりつけ医は、最終的には家族の希望で決めています。内科は月に2回、歯科医は毎週の来診です。通常通院は職員が同行しますが、緊急時には家族の協力を得ています。異変時には管理者が24時間対応の体制で対処しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康観察をしっかりと行い、受診時には日頃の様子をかかりつけ医に報告するとともに、緊急時にはかかりつけ医に相談しながら、速やかに適切な医療を受けることができるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が付き添い、必要な情報を渡し、適切な入院治療ができるように支援しています。また、退院に向けた支援ができるように、病院関係者との情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、家族やかかりつけ医とその都度相談しながら方針をたて、スタッフ間で情報を共有しながら支援を行っています。	重度化や見取りに関して、事業所として対応が可能な事と医療行為などの対応不可能な事を入居時に説明しています。重度化時の介護計画は、医師の判断に基づき家族・看護師を含めて進めています。事業所での看取りか、入院するかは、家族の希望で決めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には管理者へすぐに連絡を取り、指示に従い動けるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同じ建物内の別法人のグループホームのスタッフとも顔見知りの関係を築き、互いに協力しあう関係づくりを行っています。	諸事情により実地訓練は出来ませんが、防災マニュアルを整備し職員に周知しています。近くの消防団が正月には獅子舞で来てくれたり、同一建物に入居の介護施設との交流など協力関係にあります。職員の多くが近隣住民であることも安心感となっています。	災害時を想定した避難のための実施訓練を同居している他法人施設とも話し合っていることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議の中で言葉のかけ方を確認しながら、一人ひとりの人格や誇り、プライバシーを大切に言葉かけができるよう努めています。	話しかけや会話の中で、利用者のプライドを傷つけないことに気を配っています。言葉遣いととも、声のトーンによって冷たく感じられないような気配りを職員同士で確認しています。一人ひとりの好きなことや興味あることを話題にするように心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけやすい雰囲気をつくり、一人ひとりの会話の内容や表情から思いをくみ取り、本人が自己決定しやすいような声かけや対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	表情や発する言葉などから、その日の気分や体調をくみ取り、一人ひとりの生活のペースに沿った支援ができるように努めています。また、レクリエーションなども今日は何がしたいかお聞きしながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族に協力いただきながら、利用者それぞれの好みを尊重し、今日はどの服を着たいかなどお聞きし、その人らしい身だしなみができるように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を作っている様子や片づけをしているところが直接目に入り、準備や片づけを手伝っていただきながら、食事への興味や楽しみを持っていただけるように努めています。	日常のメニューと食材は外部委託ですが、毎月、好みの献立の日があります。利用者の希望や職員のアイデアで、メニュー作りから楽しんでいきます。外食は基本的には家族と同行です。行事食や誕生食は本人の希望を取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の作成と食材の配達を外部に委託し、カロリーと栄養バランスのとれた食事の提供をしています。また、一人ひとりに応じた食事形態で出し、摂取状況をみながら個別に好きなものや食べやすいものを出すなど柔軟に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後、個別に一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	申し送りや会議などで一人一人の排泄パターンの状況を把握し、その方に合った支援を行っています。トイレでの排泄を基本に、トイレに行きたいときのサインを見逃さないように支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員間で共有することを基本にしています。排泄表からタイミングを図って声掛けしたり、中には常に自分から申し出る利用者もいます。日中はトイレが基本ですが、夜間は睡眠優先でオムツ交換する場合があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や運動への参加をさせていただけるように声をかけ、毎日のヨーグルトや水分を十分に摂っていただけるように配慮しています。下剤についてはかかりつけ医と相談しながら、個々に応じた使用をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後の時間帯で、その方の表情や気分を見ながら声をかけ、気持ちよく入浴していただけるように支援しています。	基本は一日おきに午後の入浴です。入浴拒否傾向の利用者に対しては、気分や表情を見ながら気持ちをほぐしつつ誘導しています。入浴剤は使用していませんが、風呂上りには医師が個々の利用者処方に処方した保湿剤を塗布しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動をなるべく促すとともに、一人ひとりの生活のペースやその日の体調をよく観察し、一人一人に合わせた休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方や効能、副作用の説明をファイルに保管し、変更があったときには様子の変化に気を付けていくよう申し送りを行い、状態変化の観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「ありがとうございます」という言葉を大切に、一人ひとりお願いできる場所はお願いし、張り合いを持って生活ができるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的にその日の気分に合わせて、近所を散歩しています。また、家族との外食や外出を楽しみにしている方もいます。	車の少ない道を選んで、事業所周りの道を散歩しています。近くの高齢者と知り合いになったり、庭の花を貰ったりしています。食事を兼ねて、家族との外出を楽しんでいる利用者もいます。桜・牡丹・菖蒲・紅葉など季節のごとの花見外出を計画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの意向を大切にしながら、家族とも相談しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話があったり、かけたいという方には、ゆっくりと他の方を気にせず話ができるように、自室へ電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具を置き、ホッとできるような空間づくりをしています。また、置物や装飾などで季節を感じられるように工夫しています。	共有部分は毎日清掃し、加湿器を置いて温湿度調整をしています。家具は動線を考慮して配置し、花や置物で季節感を演出しています。部屋へのこもり切りを避ける為に、皆で体操をしたり、言葉遊びをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブルが二つとソファが一つあり、利用者同士が思い思いに話をされたり、新聞を読んだりされています。また、廊下にも椅子を置き、少し皆さんと距離を置きたい時などに過ごせる場を設けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に今まで使っていた愛着のあるものをお持ちいただくように話しています。家族の写真や好きな絵を飾られる方もいれば、何もないシンプルな部屋の方もおり、一人ひとりが居心地良く過ごせるようにしています。	介護用ベッドと加湿器は事業所の備品です。寝具や生活用品は、使い慣れた愛着のある自分のものを持ち込み、居心地の良い部屋作りをしています。室内は毎日掃除機をかけ、拭き掃除をしています。寝具のリネンは、汚れた時以外にも週に一度洗濯しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	会議の中で一人一人の現在の状況を話し合い、本人の不安や混乱を取り除き、自立した生活が送れるように環境整備をしています。		